觀光地めぐり

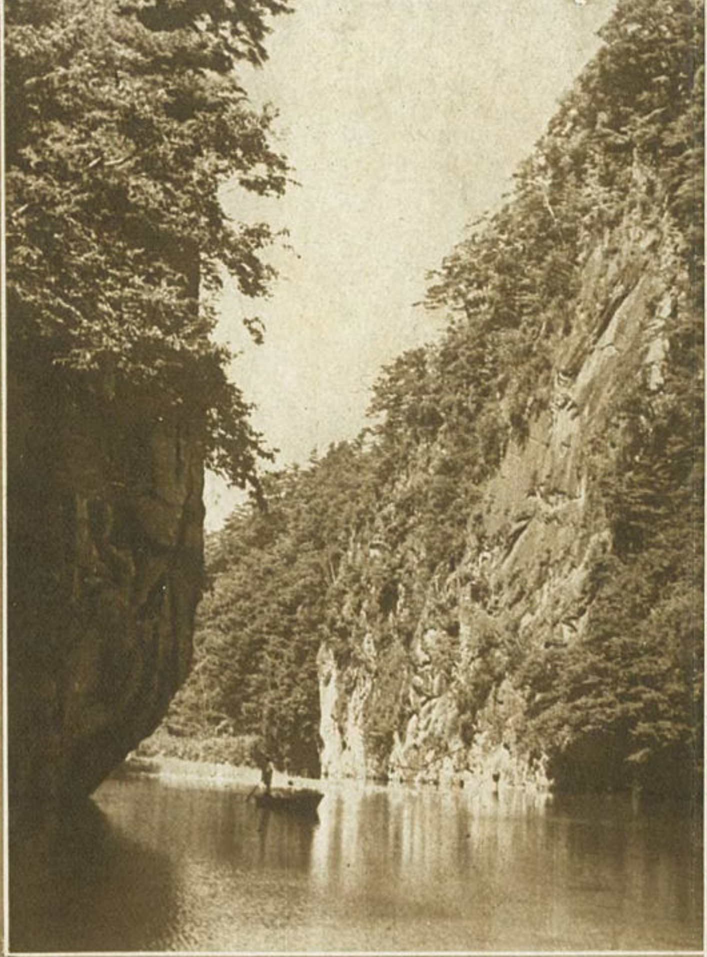
縣立公園　須川・焼石郷

須川・焼石両火山群を中心とするこの地方は、国立公園候補地八幡平につぐ、優秀な景勝地である。この地方は山岳の他に、湖沼あり温泉、史蹟あり極めて変化に富む景観であって、湿性植物は見事な群をなし、高山植物の数々が美しいお花畠をなしている。

⇩

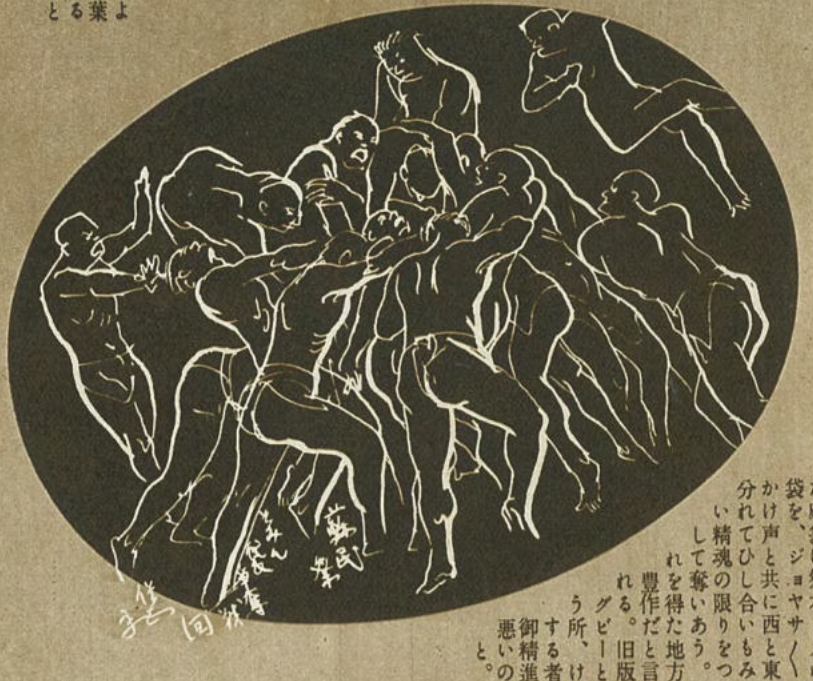
⇨ 猊鼻渓

猊鼻渓は大船渡沿線（一関で東北本線から乗りかえ）にあって、清流砂鉄に棹させば、両岸に壁立する神斧鬼鑿の絶壁は大空にそびえ正に数十丈、恰も屏風を立せる如く長蛇十余町に及ぶ、天下の名勝として自他共に許してはゞからない。



⇨ 空根の花だより

空根神社は大船渡沿線の折壁村にあり、春より秋にかけて、桜、つゝじ、すゞらん、紅葉季節とりどりに色どる、花にさそわれてくる観光客は遠く各地より年に数をまし、花とともにいつもにぎわい続けている。



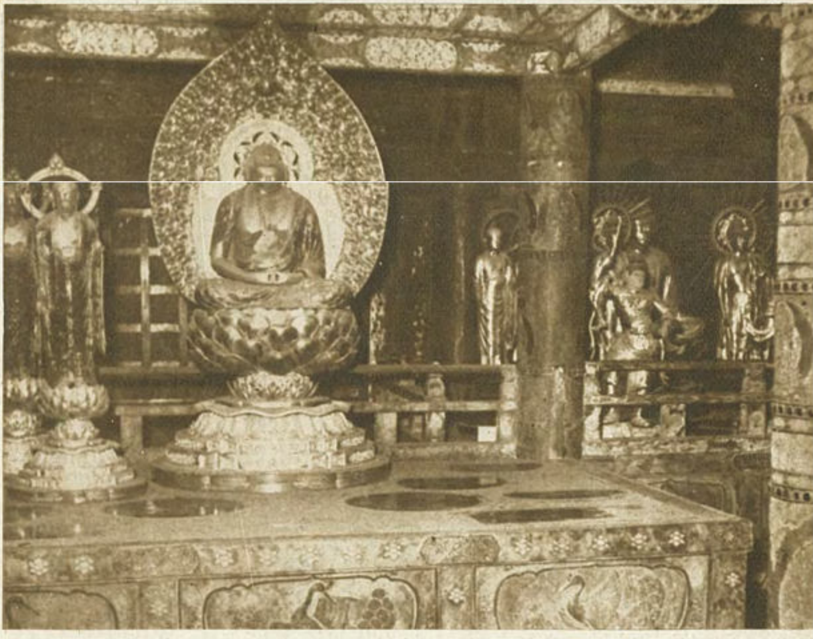
蘇民祭

江刺郡黒石村の黒石寺で旧の正月七日夜より翌朝迄行はれる。蘇民祭は火焚登、鬼子登、蘇民袋の争奪となる。一日間に紡織した麻袋に祭木を入れた袋を、ジョヤサ〳〵のかけ声と共に西と東に分れてひし合いもみ合い精魂の限りをつくして奪いあう。これを得た地方は豊作だと言われる。旧版ラグビーと言う所、けがする者は御精進の悪いのだと。

文化の華

きゝもせず束すね山の桜花
吉野の外にかゝるしらくも
西行

平泉に開花した藤原三代の文化の基盤は、陸奥出羽を支配し、経済的には産金・馬・農業生産等にあった。平泉の一切経その他の国宝は産金によって購入されたもので、京都への年貢は、金・馬・布・鷲羽・漆等であった。



⇨ 金色堂内部

金色堂

それは藤氏三代唯一の遺品、五月雨に降り残された光堂が、世界に類例のない墓所として、清衡、基衡、秀衡の三代公の御遺骸をミイラの姿のまゝで、その金色の堂内に納めてあつたことで、此処にその奇蹟の科学的鮮明と、猶永久の保存法とが、講究の為め学界の知を集めて、朝日文化事業団により、克明な調査の手が延べられたことは、大きいトップニュースとして知られたのである。

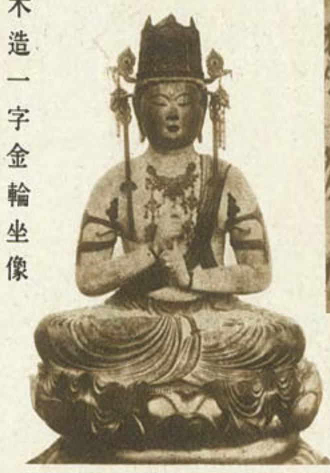
東鑑によってうかゞわれる平泉は中尊の四十余宇三百余坊を始め、毛越の五百余坊、外が浜より白河の関に到る二百余里の中心として、中尊、円隆、嘉祥、無量の寺々がその塔影を、吉野の奥にかゝる花霞の東稲を巡る桜川の流に映していたのだった

実に今日見る一千有余の国宝が、老杉の木の間に秘め傳へらるゝのもむべなるかなである。一宇金輪の女性の肌の匂い、金色燦然の七宝荘厳の巻柱、螺鈿珠玉に輝く弥陀浄土の金色堂内にはその豪華の様相をうつゝのように現わしている。

中央須弥壇の清衡公、向って左の基衡公、右の秀衡公は孝子泉三郎が首桶をいだき抱えて、粛然と神秘の扉を閉じたまゝ、かぐわしい当時の文化を語つ傳えた。

遠くは義経をとゞめて涙あり、歌人西行は此のあたりに杖をひいて、遂いに俳聖を幾百世の後にみちびき、今も遊子は衣の関に袖をぬらさぬものとてないみちのくの平泉は、一木一草、歴史を語り、四囲の眺めは春に秋に、つきせぬ旅情をさそってやまないものがある。

⇩ 金色堂三公の内棺



国宝　木造一字金輪坐像

中尊寺一山の秘佛なり。佛体は高さ二尺五寸一分膝の幅一尺八寸八分にして其厚さ一尺二寸六分あり。台座の高さは一尺三分なり。尊容端厳にして刀法の精妙なる一山の靈佛と称すべく佛身の肉色なるは世俗称して人肌の大日という以所なり。由來に就ては秀衡朝臣の念佛にして運慶の作なりと傳うれども此の像の鎌倉時代に属せずして藤原期に属すべきものなることは、夙に芸術史家の間に論ぜられし所たり。既に玉眼に造れること背部の彫刻を省きて半面と為せること体内を空洞と為して種字の銅牌を着けしことなど当時の彫法を見る絶好の資料たり。

⇨ 金色堂外観

奥の細道

三代の栄燿一睡の中にして、大門の跡は一里こなたにあり。秀衡が跡は田野に成りて、金雞山のみ、かたちを残す。先ず高館にのぼれば、北上川南部より流るゝ大河なり。衣川は和泉が城をめぐりて高館の下にて大河に落入る。康衡等が旧跡は衣が関を隔て南部口をさしかため、夷を防ぐと見えたり。さても義臣すぐつて此の城に籠り功名一時の草むらとなる。国破れて山河あり。城春にして草青みたりと、笠打敷きて時の移るまで涙を落し侍りぬ。

夏草やつわものどもが夢の跡

うの花に兼房見ゆる白毛哉　曽良

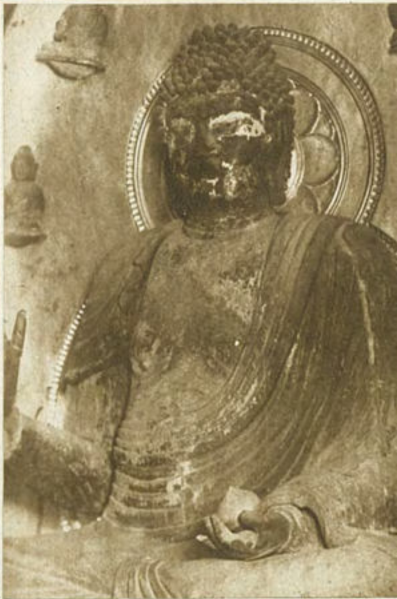
兼て耳驚かしたる二堂開帳す。経堂は三將の像を残し光堂は三代の棺を納め、三尊の佛を安置す。七宝散りうせて珠の扉風に破れ、金の柱霜雪に朽ちて、既に頽廃空虚の叢となるべきを、四面あらたにかこんで、甍を覆うて風雨をしのぐ。暫時千歳の記念とはなれり。

五月雨や降り残してや光堂

⇧ 水沢緯度観測所

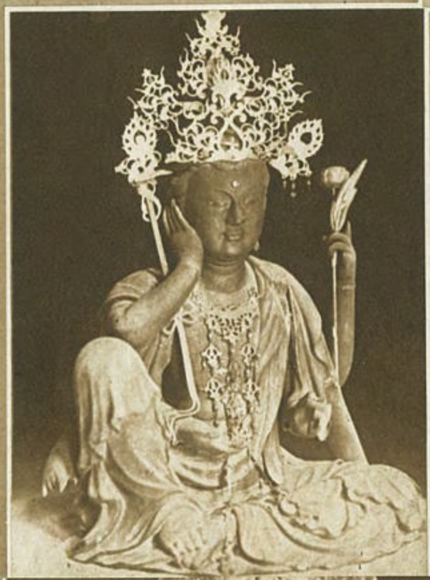
明治三九年文部省創設、一八九八年万国測地学総会において地球上四観測所の一と選定さる。木村栄博士の乙項の発見で有名。

芸術のにおい



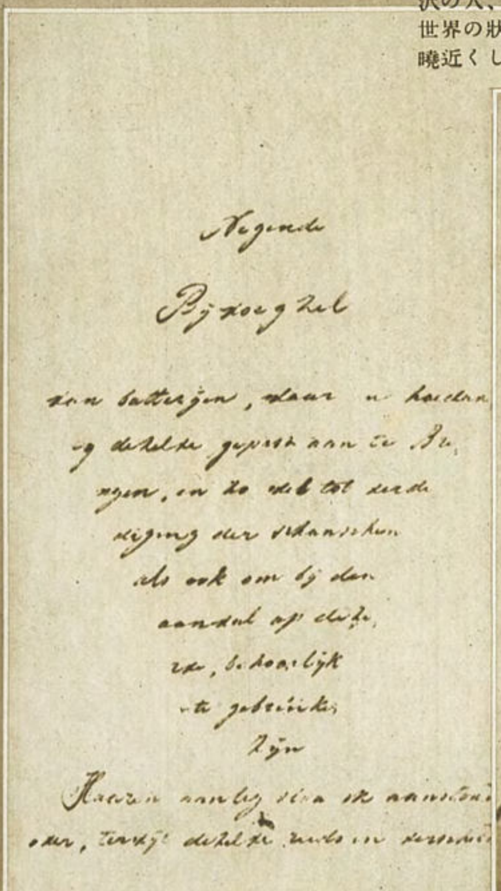
⇧ 薬師如來半丈六像は江刺郡黒石村に所在し黒石寺薬師堂の本尊で半丈六と称せられる。丈六佛像とは直立して十六尺ある像のことで坐像の場合は九尺である。半丈六とは、高さがその半分の佛身のことである。この黒石薬師堂の薬師像は、頭部螺髪に少し補修と想はれるものがある外、全体調和のとれた尊容で、作影雄勁、後背、後光佛とも佳い。藤原上期の作と云はれている。鑑査状を有している古佛像である。

江刺郡正法寺の本尊、如意輪観音像である。正法寺は南北朝頃創建され、陸奥・出羽両国の、曹洞宗の本山であった。この寺には応永頃の肖像彫刻が三体もあり、釈迦三尊も室町時代のものがある。この如意輪観音像は、本縣如意輪像の中では、殊に優秀で、稲瀬如意輪寺の如意輪像より古作であろうと言はれている。⇩



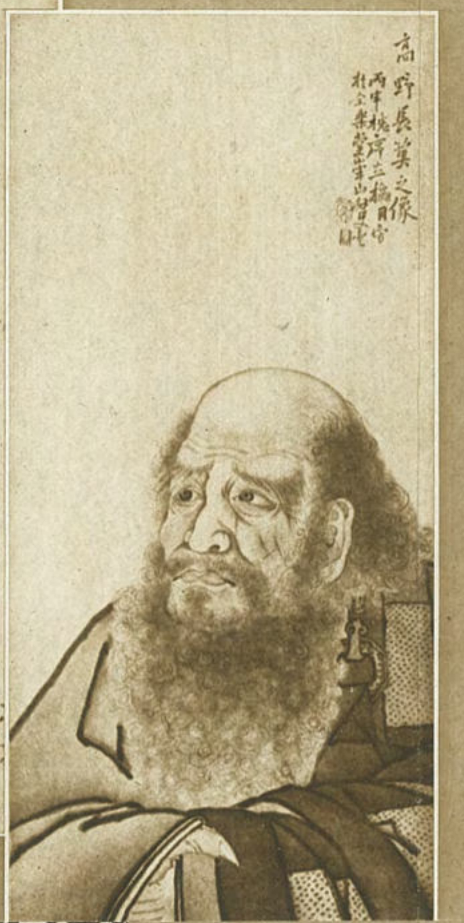
高野長英

高野長英（一八〇四——一八五〇年）は水沢の人、シーボルトに学び、蘭語をよくし、世界の狀勢をよく知り、眞実を探求せんとし晩近くして封建圧制の下に倒る。



Negende

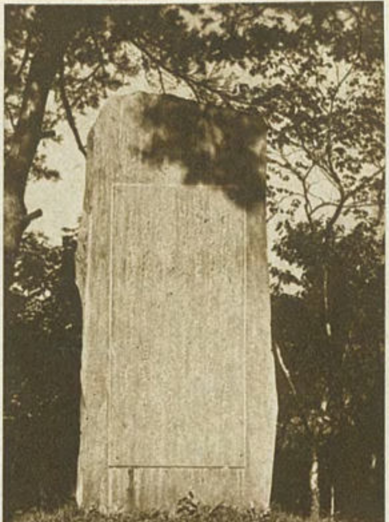
Bijvoegsel



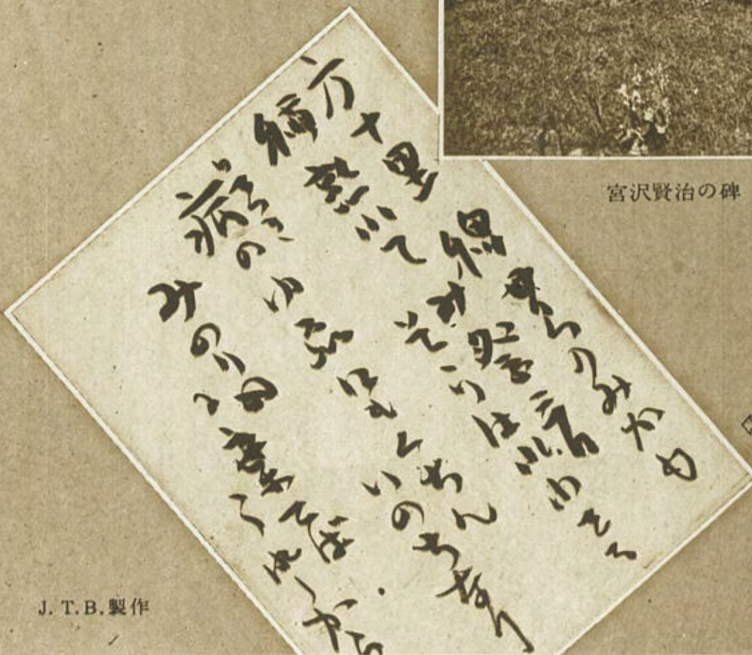
宮沢賢治

宮沢賢治（一八九六——一九三三年）は岩手の生んだ昭和の一良心であり、啄木と共に年々その眞価が認められて來ている。

平泉の文化も金色堂に往時を偲ばせ、凶作・水害等で有名な本縣に、農民の事を思い富裕な家に生れながら農民と同じ生活をし〝ギエテが「詩人」であると同様の意味で彼は詩人である〟（高村光太郎）と言はれる賢治が生れた。



宮沢賢治の碑



方十里
稗貫のみかも
稲熟れて
み祭三日
そらはれわたる
病のゆゑにもくちん
いのちなり
みのりに棄てば
うれしからまし

⇦ 宮沢賢治の遺作

J. T. B. 製作